



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月10日

上場会社名 21LADY株式会社 上場取引所 名
 コード番号 3346 URL http://www.21lady.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 道子
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)北川 善裕 (TEL)03(3556)2121
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	680	△5.3	△2	—	△4	—	△6	—
28年3月期第1四半期	718	1.8	△17	—	△19	—	△24	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △6百万円(—%) 28年3月期第1四半期 △24百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	△1.07	—
28年3月期第1四半期	△4.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	977	1	0.04
28年3月期	1,000	8	0.73

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 0百万円 28年3月期 7百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,550	0.1	13	—	7	—	2	—	0.31
通期	3,000	0.4	25	—	12	—	3	—	0.46

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	6,523,653株	28年3月期	6,523,653株
29年3月期1Q	—株	28年3月期	—株
29年3月期1Q	6,523,653株	28年3月期1Q	6,523,653株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府による経済政策等を背景に、国内景気の持ち直しが期待される中、急速な円高の進行や株価の不安定な動きにより企業の景況感や個人消費の停滞感は続いております。また、欧州の金融不安や中国景気及び新興国経済の減速により、先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような環境のもと、当社グループはヒロタ・イルムス両事業におきまして、直営店強化や流通・法人部門を中心に、新商品の投入による販売力強化及び経営改善計画の達成を目指し取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高680,123千円（前年同四半期比5.3%減）、営業損失2,376千円（前年同四半期は17,626円の営業損失）、経常損失4,896千円（前年同四半期は19,233千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は6,947千円（前年同四半期は24,426千円の四半期純損失）となりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

ヒロタ事業

直営部門におきましては、シューアイスギフトの販売強化を行い、既存店舗の強化を図りつつ、ヒロタのブランド価値を高めてまいりました。また、不採算店舗を2店舗退店し、当第1四半期連結会計期間末の総店舗数は、28店舗となりました。

ホールセール部門におきましては、オリジナルシュークリームのブラッシュアップを図り、首都圏と関西のマーケットを拡大しつつ、それ以外の地域の取引先への拡大に努め、売上高は前年同四半期比5.5%の増収となりました。

この結果、売上高478,016千円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益13,157千円（前年同四半期は1,720千円の営業利益）となりました。

イルムス事業

直営店舗におきましては、春夏商品の投入及び2016年度最重点取引先による全社共通ブランドフェアによって売上と利益額の拡大を図りました。なお、平成28年3月に不採算店舗の阪急うめだ店を閉店し、当第1四半期連結会計期間末の総店舗数は、11店舗となりました。

コーポレート部門におきましては、卸売や商標権の活用を中心に東西の既存取引先及び新規取引先へのアプローチを行うとともに、イルムスブランドを活用した商品企画によって売上高及び粗利益高も大幅に伸ばいたしました。

また、オンラインショッピングにおきましては、売上高が前年同四半期比136.2%と大きく伸ばいたしました。

この結果、売上高は202,107千円（前年同四半期比12.4%減）、営業損失は4,289千円（前年同四半期は8,209千円の営業損失）と前年同四半期に比べ改善いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ23,079千円減少し、977,563千円となりました。これは主に、流動資産が19,377千円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ16,131千円減少し、976,044千円となりました。これは主に、流動負債においてその他が10,962千円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ6,947千円減少し、1,518千円となりました。これは、利益剰余金が6,947千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年5月13日発表の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで継続して営業損失を計上しており、当第1四半期連結累計期間においても2,376千円の営業損失を計上しました。このため、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

この事象を解消し、又は改善するため、ヒロタ事業・イルムス事業において以下の施策を実行いたします。

ヒロタ事業

株式会社洋菓子のヒロタは、主力商品であるシュークリーム・シューアイスの更なるブランド価値を向上させるための期間限定商品等オリジナリティーの高い商品開発を図り、また、製造原価及び販売管理費の圧縮を進め、収益性を高めてまいります。具体的な施策は以下のとおりであります。

- ① 直営不採算店舗の統廃合及び物流費の最適化による収益性アップ
- ② ホールセール部門での新規取引先の開拓及び販売チャネル拡大による売上の拡大
- ③ 海外戦略による、東南アジアを中心とした輸出売上の拡大

イルムス事業

株式会社イルムスジャパンは、ブランド戦略及び商品戦略に重点を置き、利益の拡大を図ります。具体的な施策は以下のとおりです。

- ① 東西の旗艦店である日本橋店、梅田店のコーポレート営業と連動した売上拡大
- ② 重点取引先との取組み強化による粗利率の改善
- ③ オリジナル商品開発とオリジナル商品売上比率アップによる売上総利益の拡大

当社グループといたしましては、両事業において業績回復の兆しが見られ、今後、財務面につきましても業績回復と連動した改善を図り、継続的に安定した経営を目指してまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあり、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	257,741	213,741
売掛金	219,155	224,231
たな卸資産	143,833	164,746
その他	25,086	23,719
貸倒引当金	△21	△21
流動資産合計	645,796	626,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	194,043	192,304
その他	42,029	46,342
有形固定資産合計	236,073	238,646
無形固定資産		
その他	25,923	24,362
無形固定資産合計	25,923	24,362
投資その他の資産		
その他	86,630	82,806
貸倒引当金	△1,126	△976
投資その他の資産合計	85,504	81,829
固定資産合計	347,501	344,839
繰延資産		
株式交付費	7,346	6,305
繰延資産合計	7,346	6,305
資産合計	1,000,643	977,563
負債の部		
流動負債		
買掛金	184,206	192,715
短期借入金	20,577	19,256
1年内返済予定の長期借入金	33,108	31,164
リース債務	26,716	25,175
未払法人税等	21,981	22,864
未払金	272,482	271,888
未払費用	91,013	86,625
資産除去債務	-	2,388
その他	66,339	55,376
流動負債合計	716,425	707,454
固定負債		
リース債務	115,629	112,660
長期未払金	95,839	95,839
資産除去債務	16,573	13,636
その他	47,708	46,454
固定負債合計	275,751	268,590
負債合計	992,176	976,044

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	175,520	175,520
資本剰余金	511,344	511,344
利益剰余金	△679,558	△686,506
株主資本合計	7,306	358
新株予約権	1,160	1,160
純資産合計	8,466	1,518
負債純資産合計	1,000,643	977,563

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	718,085	680,123
売上原価	344,218	318,793
売上総利益	373,866	361,330
販売費及び一般管理費	391,492	363,707
営業損失(△)	△17,626	△2,376
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	-	30
貸倒引当金戻入額	370	150
その他	99	167
営業外収益合計	469	347
営業外費用		
支払利息	756	1,798
株式交付費償却	1,320	1,040
その他	-	28
営業外費用合計	2,076	2,867
経常損失(△)	△19,233	△4,896
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△19,233	△4,896
法人税、住民税及び事業税	5,411	2,083
法人税等調整額	△218	△31
法人税等合計	5,192	2,051
四半期純損失(△)	△24,426	△6,947
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△24,426	△6,947

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純損失(△)	△24,426	△6,947
四半期包括利益	△24,426	△6,947
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△24,426	△6,947
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで継続して営業損失を計上しており、当第1四半期連結累計期間においても2,376千円の営業損失を計上しました。このため、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

この事象を解消し、又は改善するため、ヒロタ事業・イルムス事業において以下の施策を実行いたします。

ヒロタ事業

株式会社洋菓子のヒロタは、主力商品であるシュークリーム・シューアイスの更なるブランド価値を向上させるための期間限定商品等オリジナリティーの高い商品開発を図り、また、製造原価及び販売管理費の圧縮を進め、収益性を高めてまいります。具体的な施策は以下のとおりであります。

- ① 直営不採算店舗の統廃合及び物流費の最適化による収益性アップ
- ② ホールセール部門での新規取引先の開拓及び販売チャネル拡大による売上の拡大
- ③ 海外戦略による、東南アジアを中心とした輸出売上の拡大

イルムス事業

株式会社イルムスジャパンは、ブランド戦略及び商品戦略に重点を置き、利益の拡大を図ります。具体的な施策は以下のとおりです。

- ① 東西の旗艦店である日本橋店、梅田店のコーポレート営業と連動した売上拡大
- ② 重点取引先との取組み強化による粗利率の改善
- ③ オリジナル商品開発とオリジナル商品売上比率アップによる売上総利益の拡大

当社グループといたしましては、両事業において業績回復の兆しが見られ、今後、財務面につきましても業績回復と連動した改善を図り、継続的に安定した経営を目指してまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあり、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	487,500	230,585	718,085	—	718,085	—	718,085
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	487,500	230,799	718,085	—	718,085	—	718,085
セグメント利益又は損失 (△)	1,720	△8,209	△6,488	—	△6,488	△11,137	△17,626

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△11,137千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である提出会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	478,016	202,107	680,123	—	680,123	—	680,123
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	478,016	202,107	680,123	—	680,123	—	680,123
セグメント利益又は損失 (△)	13,157	△4,289	8,867	—	8,867	△11,244	△2,376

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△11,244千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である提出会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。